

# 国語科学習指導案

指導者 佐藤 恵子

- 1 日 時 平成24年11月19日（月）
- 2 学 年 特別支援学級（知的） 第2学年 2名 [たんぼぼ学級]
- 3 単 元 名 かみコップおもちゃをプレゼントしよう  
（学習材：「かみコップ人ぎょう」大阪書籍 1年下）

## 4 単元設定の理由

- 本学級では、文字の読み書きの学習を毎日積み重ねてきている。その結果、一文字ずつではあるが平仮名の読み書きは二人ともできるようになった。片仮名については、その大部分を読むことができる。漢字については、1年生で学習する漢字のうち、約8割以上の読み書きができるようになってきている。

読むことについては、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することはまだ難しく、一文字ずつ読んでいることが多い。今まで文章を読む時には、教師と一緒に言葉で区切りながら読んだり、教師の後について読んだりしてきた。1学期に学習した説明的な文章「たんぼぼ」では、文を教師と一緒に言葉で区切りながら読み、書いてあることと挿絵を見比べて確認しながら書いてある内容を理解していくようにしていった。また、文学的な文章「お手紙」では、登場人物の役を決め、会話文を登場人物になった気持ちで読み、お話のおもしろさを味わった。

2学期になり、9月に「山のぼりかめさんをプレゼントしよう」という単元を設定し、「山のぼりかめさん」の作り方、遊び方を書いた説明文（カード）を読む学習をした。その時には、実際に「山のぼりかめさん」を作るという目標に向かって、二人とも意欲的に説明文を読むことができた。

個々の児童の実態については、次のようである。

### （A児について）

周囲のいろいろなことが気になり、学習へのとりかかりに時間がかかったり、学習を集中して続けたりすることが難しい面がある。また、気になることが解決しないと次へ進めない面があるので、児童が落ち着いて学習できる環境を作りながら指導してきた。

また、線（文字）や物の形をとらえることが苦手な面がある。漢字を書くことにはじめは抵抗があったが、自分で書きたい字を選ばせて一日一文字ずつ新しい漢字を学習することにより、習いはじめの頃よりは抵抗が少なくなってきている。

話すことについては、自分が話したいことについてはよく話すが、こちらが話すことについては、耳に入っていないこともある。注意を向けることにより、一つの話題についてだんだんと会話が続くようになってきている。さ行の発音が不明瞭なので、聞き取りにくい時には、声をかけて繰り返し練習するようにしている。

読むことについては、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することはまだ難しく、一文字ずつ読んでいることが多い。1学期に「たんぼぼ」を教師と一緒に読んだ時には、たんぼぼのわたげを吹いて飛ばした時の経験を思い出し、楽しそうに話していた。「お手紙」を学習した時

には、かえるくんの役になって読むことに興味をもち、自分から進んで読もうとしていた。しかし、自分の興味や関心のあるものでないと、なかなか自分からは読もうとはしない。「山のぼりかめさんをプレゼントしよう」の学習では、簡単な説明文を意欲的に読むことができた。そのことを踏まえ、本教材は、興味や関心を持って読むことができる教材と考えられる。

(B児について)

1年生入学時には、自分から話すことはほとんど無かったが、今では、「おはよう」と声をかけると、「おはよう」と言えるようになってきている。自分が何か尋ねたいことがあると、単語ではあるが教師に尋ねてくるようになってきている。また、最近では、自分が描いたり作ったりしたもの(紙工作)を自分から担任に見せて単語でそれが何かを教えることもするようになってきた。そういう時には、児童が楽しくなるような会話のやりとりができるよう心がけている。学校生活の中で、B児にわかりやすい言葉で話し、身振りも入れてコミュニケーションを図るようにしている。以前から漢字に興味があり、日常生活の中で見た興味のある文字を形として覚えている。遊びとして絵や文字をかくことが好きで、そうすることが気持ちの安定にもつながっている。

読むことについては、A児と同様に、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することはまだ難しく、一文字ずつ読んでいることが多い。文を読むことについては、教師の後について言葉ごとに区切って読むことはできるが、興味関心をもって意欲的に読むというところまでには至っていない。本教材では、「山のぼりかめさんをプレゼントしよう」の学習と同様に、興味をもって読ませたい。

- 本単元は、小学校学習指導要領国語編第1学年及び第2学年の「C読むこと」説明的な文章の解釈に関する事項に準じて設定した。

学習指導要領には以下のように示されている。

(1) イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

本単元では、初めに紙コップおもちゃを作り、お家の人にプレゼントすることを児童に知らせることで、児童の学習意欲を高める。この学習を通して文章を読むことで作り方が分かるという体験ができ、それは、文章を読むことのよさ、意義を体験できることと考える。この体験を通して、児童がこれから他の文章を読もうとする意欲にもつなげていく。

教材文「かみコップ人ぎょう」は、文と絵で紙コップ人形の作り方を説明している。「はじめに」「つぎに」「さいごに」という順序を表す言葉が使われていて、順序に気を付けて読み取る学習に適している。

- 指導にあたっては、集中して少しずつ読み進めていけるように、一文ずつ提示する。提示した文を言葉で区切りながら教師と一緒に読むようにする。一文読んだら、書いてある内容を言葉で話させたり、操作することで表現させたり、教師の問いかけに答えさせたりすることにより読み取った内容を確認し、そこまでの紙コップ人形を作るようにする。最後の文を読んで作ると、紙コップ人形が完成することになる。できあがった紙コップ人形で遊び、よかったところを誉め、達成感を味わわせ、自信につなげていきたい。そして、文章を読もうとする意欲を育てていく。

## 5 研究主題との関わり

### (1) 扱う言語活動例

事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読む。

### (2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

紙コップを使って作るおもちゃの説明文を実際に作りながら読むことにより、楽しみながら説明文を読む体験ができ、児童の学習意欲を高めるようにする。集中力を持続させるために一文ずつ分割提示する。書いてある内容を自分の言葉で話したり、操作したり、教師の問いかけに答えたりすることにより、読みを確かなものにしていく。説明文を読んでおもちゃを作り上げることにより、達成感や自信をもたせる。

## 6 単元の目標

- 簡単な手作りおもちゃの作り方や遊び方が書いてある説明文を読もうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

- ◎ 紙コップ人形を作るために説明文を読む学習活動を通して、教師の助けをかりながら事柄の順序に気をつけて内容の大体を読むことができる。

【C読むこと（イ）説明的な文章の解釈に関する指導事項】

## 7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと
単元の評価規準	○紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を読み、紙コップ人形を作ろうとしている。	○紙コップ人形の作り方が書いてある説明文の内容の大体を教師の助けをかりながら順序に気を付けて読み取っている。
学習活動における 具体の評価規準	○紙コップ人形を作るために、作り方が書いてある説明文を読もうとしている。	○「紙コップ人形」の作り方や遊び方が書いてある説明文の内容の大体を教師の助けをかりながら読み取り、読み取ったことを話したり、身振りで表現したり教師の問いかけに答えたりしている。

8 指導計画（全3時間）

次	学習活動	評価				
		関	読む	評価規準		評価方法
				A 児	B 児	
一	紙コップおもちゃを作ってお家の人にプレゼントすることを知り、学習の見通しをもつ。（1）	○		○ 紙コップおもちゃを作ってお家の人にプレゼントすることを知り、意欲をもつ。	○ 紙コップおもちゃを作ってお家の人にプレゼントすることを知り、意欲をもつ。	行動観察
二	紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を読み、紙コップ人形を作り、それを動かして遊ぶ。 （1，本時）		◎	◎ 紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を言葉で区切りながら教師と一緒に読み、書いてある内容の大体を教師の助けをかりながら挿絵を参考に読み取り、自分の言葉で話したり、操作して表現したりすることができる。	◎ 紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を言葉で区切りながら教師と一緒に読み、書いてある言葉の意味を教師の助けをかりながら挿絵を参考に読み取り、教師の問いかけに対して身振りや言葉で答えることができる。	行動観察
三	プレゼントカードに言葉を書く。 （1）	○		○ 書きたい言葉を考えてカードに書く。	○ 教師が示した例の中から書きたい言葉を選び、カードに書く。	行動観察

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

(A児) 紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を教師と一緒に読み、教師の助けをかりながら、挿絵を参考に順序に気を付けて内容の大体を読み取ることができる。

(B児) 紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を教師と一緒に読み、教師の助けをかりながら挿絵を参考に主な言葉の意味を読み取ることができる。

### (2) 観点別評価規準

(A児) 紙コップ人形の説明文を言葉で区切りながら教師と一緒に音読し、書いてある内容の大体を教師の助けをかりながら挿絵を参考に読み取り、自分の言葉で話したり、操作して表現したりすることができる。 [読むこと]

(B児) 紙コップ人形の説明文を言葉で区切りながら教師と一緒に音読し、書いてある言葉の意味を教師の助けをかりながら挿絵を参考に読み取り、教師の問いかけに対して身振りや言葉で答えることができる。 [読むこと]

### (3) 本時のポイント

本時では、紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を読みながら実際に紙コップ人形を作ることにより、児童の学習意欲を高める。集中力を持続させるために一文ずつ分割提示する。教師の助けをかりながら、挿絵を参考に読み取ったことを言葉や操作、身振り等で表現させることにより、読みを確かなものにする。読みを進めていくにつれ、紙コップ人形が目に見える形で出来上がり、喜びを感じることができる。説明文を読んで紙コップ人形をつくることができたという体験をさせることにより、達成感や自信をもたせる。

### (4) 準備物

紙コップ人形の作り方の文と挿絵(掲示用)、紙コップ、たこ糸、はさみ、セロテープ、カラーマジック

### (5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準(評価方法)
1 本時のめあてを知る。		
紙コップ人形をつくってあそぶために、せつめい文を読もう。		
	○作り方が書いてある説明文を読みながら紙コップ人形を作ることを話し、意欲をもたせる。	○学習のめあてについて聞いている。 (行動観察)

2 材料の確認をする。	A 児	B 児	
3 分割提示された紙コップ人形の作り方が書いてある説明文を教師と一緒に一文ずつ音読し、紙コップ人形を作る。 ・文に書いてある内容を挿絵で確認し、自分の言葉で話したり、教師の問いかけに身振りや言葉で答えたりする。	○教師と一緒に読んだり、後について読ませたりする。次に、書いてあることの意味を教師の助けをかりながら挿絵を参考に考えさせ、言葉や操作等で表現させる。	○教師と一緒に読んだり、後について読ませたりする。次に、主な言葉の意味を教師の助けをかりながら挿絵を示して考えさせ、教師の問いかけに対して身振りや言葉で答えさせる。表現が難しい時には、教師が言葉を補う。	○紙コップ人形を作るために作り方が書いてある説明文を教師と一緒に読んでいる。(行動観察)  ○読み取ったことについて言葉や操作等で表現したり、教師の問いかけに身振りや言葉で答えたりしている。(行動観察)
4 出来上がった紙コップ人形を使って遊ぶ。	○楽しんで遊べる雰囲気にする。		
5 学習のまとめをする。	○よかったところをほめ、達成感をもたせる。 ○本時の感想を話させる。	○よかったところをほめ、達成感をもたせる。 ○本時の感想を教師が言った言葉の中から選んで表現させる。	○本時の感想を表現している。(行動観察)